

稲美中学校学校教育目標の実現に向けて

稲美中学校教育目標

—豊かな心を持ち、自立する生徒の育成—

「自主・創造・友愛」の校訓と「根の養い教育」の伝統を基盤に、生徒一人一人の個性を生かし、その能力を伸ばし、個性豊かで「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成に努める。

1 本校教育目標の実現のために

「豊かな心を持ち、自立する生徒の育成」するためには、生徒の生活面と学習面において調和のとれた育成が不可欠です。

生活面においては、規則正しい生活習慣や健康管理の確立が自立の基盤となります。集団生活を通じて他者を尊重し協力する姿勢を養い、普段の学校生活や学校行事でのコミュニケーション能力を育みます。また、奉仕活動や地域交流により思いやりと社会的責任感を培い、自らの行動に責任を持ち問題解決に取り組む経験を通して自立心を育成します。

（挨拶・深謝（感謝と謝罪）・脚下照顧（靴をそろえる））

学習面では、基礎的知識・技能の習得が第一です。それらを活用して考え判断する力を養い、その過程を繰り返すとともに、多様な表現活動（他者、自己）を通して伝える力と受け止める柔軟性を育むことで、知的好奇心と学ぶ意欲を高め、深い学びとなります。こうした学びの成功体験が、学びの肯定感向上につながり次の挑戦への原動力となります。

生活面と学習面は密接に関連しており、両面からの指導が相乗効果を生み出します。教師は生徒一人ひとりの個性を理解し適切な支援を行うとともに、家庭や地域と連携しながら地域全体で生徒を育てる体制を整えることが大切です。我々の日々の小さな積み重ねは成長につながっていると信じ、中学校卒業後も見据えた長期的視野で生徒の成長を促していきましょう。

2 学校の令和7年度スローガン

ひろがる 深まる 人・未来・社会 ～つながりの先に～

生徒一人ひとりが人、未来、社会とのつながりを広げ深めながら、校訓や教育目標「豊かな心を持ち、自立する生徒の育成」を体現できる人材の育成を図る。

本スローガンのもと、教育目標に示された重点目標を達成するため、以下のめざす姿を実現する教育活動を実施します。

(1) めざす生徒像の実現に向けて

命を大切にし、善悪の判断のできる生徒を育成するために、道徳教育や人権教育を充実

させ、実際の社会問題や身近な事例を通して考える機会を設けます。また、いのちの教育を通じて、自他の存在を尊重する心を育みます。

夢と志を持ち、主体的に取り組む生徒を育てるために、キャリア教育を系統的に実施し、将来の展望を描く力を養います。探究的な学習を取り入れ、生徒自らが課題を設定し解決する過程を重視します。

素直で思いやりがあり、粘り強く努力する生徒の育成には、協働的な学びの場を多く設定し、互いを認め合う集団づくりを進めます。困難に直面しても諦めず取り組む姿勢を評価する仕組みを作り、努力の過程を大切にします。

(2) めざす教師像の実現に向けて

豊かな心と人間性の涵養に努める教師となるため、教職員が文化・芸術に触れる機会を増やし、感性を磨きます。教師同士が互いの良さを認め合い、協力し合う職場環境を構築します。

使命感と倫理観を持ち、生徒一人一人の良さや可能性を引き出す教師になるために、生徒の一人ひとりの特性や背景を理解する努力を続け、適切な支援を行います。肯定的な声かけや励ましを大切にし、生徒の自己肯定感を高めます。

研修と自己の向上に努める教師を目指し、校内外の研修に積極的に参加するとともに、日常的な授業研究や教材研究を充実させます。教科横断的な学びの視点を持ち、総合的な指導力の向上を図ります。

(3) めざす学校像の実現に向けて

ともに学び合い、支え合い、高め合う学校を創るために、生徒会活動等により、異学年交流や縦割り活動を充実させ、学年を超えた関わりを促進します。特別支援教育の視点を全教職員でより一層共有し、インクルーシブな学校づくりを進めます。

生徒の自己指導能力が高く、ルールとリレーションが大切にされる学校にするため、生徒会活動や委員会活動を活性化し、生徒自身が学校生活のルールや行事を考える機会を増やします。教師と生徒の信頼関係構築に重点を置き、対話の時間を大切にします。

家庭、地域との連携・協力が円滑に行われ、信頼される学校となるよう、学校の取り組みを積極的に発信するとともに、地域の方々とともに資源を活用した教育活動を展開します。保護者や地域住民が参画できる場を設け、開かれた学校づくりを進めます。

このように、「ひろがる 深まる 人・未来・社会 ～つながりの先に～」というスローガンのもと、人、社会とのつながりを広げ、深め、よりよい自己実現（未来）を創造していく教育の実現を目指します。